

学生への学修支援活動の報告



※写真はイメージです

開催イベント	Country Presentations
日 時	実施期間：平成29年11月10日(金)～平成30年1月19日(金) 実施時間：各回30分(全20回)
場 所	サギタリウス館 1階グローバルコモンズ
参加者	115名(本学学生105名、教職員10名)
内 容	グローバルコモンズ学生スタッフ 19名(日本人10名、留学生9名)が、自身の出身国について英語で約15～20分程度でプレゼンテーション発表を行い、参加者の外国語学習や異文化理解を促進させるイベントが開催されました。プレゼンテーションの内容は、各発表者によって様々なトピックが設定されました。例えば、シンガポールの回では、「罰金の国～シンガポール」と題し、罰金制度設置の目的や罰金行為の具体例が紹介され、日本や他国と異なる独自の罰金制度について、参加者から多くの質問がありました。また、本イベントは、発表者であるグローバルコモンズ学生スタッフ自らが準備段階から主体的に取り組んでおり、今回の発表を通じて、学生スタッフ自身が自国や出身地について振り返る良い機会となりました。 <国・都市：9カ国・7都市> ※順不同 シンガポール、スロバキア、チェコ、イタリア、フィンランド、中国、メキシコ、タイ、日本(富山、香川、神奈川、福井、兵庫、京都、大阪)

参加者の声より

- ・流暢には英語が話せなかったけど、聞いてとてもためになった。
- ・シンガポールのユニークな罰金制度について知れて、おもしろかった。将来、ぜひシンガポールに旅行で行ってみたい。
- ・これまで知らなかった国のことを知れて、大変興味を持った。

開催セミナー	レポート作成応援ワークショップ
日 時	実施期間：12月18日(月)、19日(火)、21日(木)、22日(金) 実施時間：①12時25分～13時10分、②17時～18時 ※月曜日のみ①のみ実施
場 所	Lib.コモンズ(図書館ホール)、パソコン室
参加者	30名(本学学生)
内 容	これまでライティング関連のワークショップ(以下、WS)は、図書館、教育支援研究開発センターのそれぞれで開催されてきましたが、平成29年度は、両所属共催による「レポート作成応援ワークショップ」が開催されました。前半「レポートの書き方」についてラーニングコモンズ(以下、LC)の職員がLib.コモンズにて担当し、後半「文献情報収集」について図書館職員がパソコン室にて担当する二部構成となりました(※実施時間①のみ)。 LC職員が担当した「レポートの書き方」では、開催時期がレポート課題発表直後だったこと、15分ほどの限られた持ち時間であることを踏まえ、レポート構成を具体的に提示することで一文字目からスムーズに書き始められることに重点を置き、LC主催WSや授業連携WSと比較して、より実践的な内容で実施しました。 参加者30名によるアンケート結果では、8割以上の参加者が「満足」と回答しており、参加者の高い満足度を得られました。

参加者の声より

- ・漠然としか理解していなかったレポート作成時の注意点が知れた。
- ・レポートの基本的な書き方を学ぶことができた。
- ・年に数回だけでなく、毎月ワークショップを開催する方が良いと思う。
- ・実際に書いてあるレポートなど、本物があるとわかりやすいと思った。

授業改善や高等教育の質的向上に資する情報の公開!!

公益社団法人私立大学情報教育協会では、教育方法、教材開発、教育支援等に関する様々な講演・発表の映像やスライドをデジタル・アーカイブし、3年度分(平成29年度：129件、平成28年度：127件、平成27年度：158件)のコンテンツをオンデマンド配信されています。中には、FDに関する内容だけでなく、「第3期教育振興基本計画策定の審議状況」といった、高等教育政策の動向について、現在の社会を取り巻く環境やそれに対する高等教育の現在、蓄積された課題に対する対応策等、「新しい時代に応じた高等教育の質をどのようにするか」といった多岐にわたる議論を講演されている内容も含まれています。また、その他にも、質保証・能動学修・双方向型授業・ポートフォリオ等、授業改善に資する有益なコンテンツが多数揃っていることから、本学教職員の皆様におかれましては、積極的に活用ください。ログインに関するID及びパスワードについては、本学電子掲示板POSTの教育支援研究開発センターのキャビネットより、ご確認ください。

<平成29年度配信コンテンツ(タイトル：一部抜粋)>

- ・第3期教育振興基本計画策定の審議状況
- ・ICT機器を利用して毎回定めた目標を達成するためのグループ学習を行う授業
- ・専門科目におけるアクティブラーニングの試み
- ・基礎学力の把握及び格差減少に向けたmoodleを用いた入学前教育について
- ・講義教室を使用する科目における授業支援システムの活用
- ・教育の質保証を目指した学修成果可視化への取り組み

CERADES News Vol.12 平成30年3月発行

編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel:(075)705-1729

e-mail:kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL:http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html

CERADES News

セラデス ニュース

 Vol.12
Mar. 2018


学生ファシリテータ第8期生の研修

学生ファシリテータ第8期生からのメッセージ



こんにちは！第8期学生ファシリテータ(以下、学ファシ)一同です。私たちは、主に初年次向けキャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活」や、各学部で開催される新入生対象の入学前オリエンテーションプログラムの運営サポートなどを行っています。第8期生の活動が、平成29年10月から開始されましたが、授業等の現場に入る前に、ファシリテーションスキルを身につけるために合宿や研修に参加します。また、こうした研修を通じて、スキルの修得のみならず、学ファシ同士が協力し合い、授業運営をサポートできるような関係性の構築を目指しています。ファシリテーションを活かした学生の主体的な学びを促す授業づくりを検討されている場合は、是非、教育支援研究開発センター F工房までお問い合わせください！お待ちしております。

Contents

p2 <アクティブラーニングの手法の共有>
平成29年度アクティブラーニングセミナー
～PBLからアクティブラーニングを考える～の開催

p3 <アクティブラーニングの実践の共有>
平成29年度英語講義FDワークショップの開催

p4 学生への学修支援活動の報告
・Country Presentationsの開催
・レポート作成応援ワークショップの開催

授業改善や高等教育の質的向上に資する情報の公開!!

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン製作している刊行物です。

CERADES(セラデス)は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

平成29年度 アクティブラーニングセミナー ～PBLからアクティブラーニングを考える～ の開催

本学のキャリア形成支援教育では、企業や行政など学外組織と連携した課題解決型教育プログラムであるPBL（Project Based Learning）を約10年間実践してきました。「課題解決型教育」ではアクティブラーニングやTBL（Team Based Learning）などの学習形態を実施しており、今回、そのノウハウを共有することで、学部での活用の一助とすることを目的に、1月10日（水）、教育支援研究開発センター・キャリア教育研究センター主催「アクティブラーニングセミナー～PBLからアクティブラーニングを考える～」を開催しました。

当日は、教職員43名が参加しました。本学キャリア形成支援教育科目※「O/OCF-PBL」の統括教員である経営学部の伊吹准教授と担当



教員の現代社会学部の木原准教授から、「O/OCF-PBL」の開講目的や概要、企業との連携・展開方法、複数クラスの運営方法等の紹介が行われ、本科目を平成26年度以降担当されている文化学部の吉野准教授からは「専門科目での学習手法活用の可能性」について、講演いただきました。その後、登壇者と参加者による意見交換が行われました。今回のセミナーのポイントである、学部で開講されている専門科目における学習手法の活用ポイントについてご紹介します。



※「O/OCF-PBL（On/Off Campus Fusion-Project Based Learning）」

本学のキャリア形成支援教育科目の中でも特に課題解決科目群に位置づけられるものであり、課題解決活動を通じて実社会で必要となる心構えや能力を身につけるために設定された科目です。大学での学び（On Campus）と実社会（Off Campus）での学びとを融合（Fusion）させながら、実践指向型の課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）にて、1年次から3年次まで体系的な能力伸長を図るものです。特に、「O/OCF-PBL2、3」においては、「企業からいただいた課題の解決」と「主体性や社会性の涵養をはじめとする能力の伸長」とを同時に達成することが目標となります。

〈吉野准教授による講演の概要〉

「O/OCF-PBL」の手法を、学部での専門科目やゼミに活かす可能性について、文化学部の授業を事例に講演しました。本科目を平成26年度から担当していますが、その手法は、学部の担当科目でも応用しています。例えば、京都文化フィールド演習Eでは、学生に史跡踏査の企画から遂行までを、事前準備も含めコーディネートさせています。学生に試行錯誤させることの重要性は、「O/OCF-PBL」の担当を通じて学んだことです。文化学部では、ゼミを中心に、人文科学を文献学的手法により教育しています。真面目で大人しい、「好きなことを学びたい」、コミュニケーションは苦手、というのが文化学部生の特徴として感じています。長所を伸ばし、短所を克服する方法は何か、苦心のしどころですが、「O/OCF-PBL」をこれまで担当してきたことで、さまざまな学部生と接した経験が活きる場面は少なくありません。また、学部教育で獲得される専門的能力は、汎用的なものではありません。しかし、プロの職業人とは、何らかの「専門家」で、他分野の「専門家」と仕事を共にする存在です。こうした観点から、平成27年発足の京都文化学科では、ゼミ以外でも、文化財調査、祭礼運営など地域社会で活躍する「専門家」と交わるアクティブラーニングを積極的に導入しており、ここでもこれまでの経験が活きています。

「O/OCF-PBL」は、学生がプロの職業人と向き合う貴重な機会です。受講生には、課題解決の達成感と共に、専門的能力の必要性を自覚し、「個性」の獲得を目指し努力し続けることを期待しながら指導にあたっています。教職員の皆さんには、教育のプロとして、PBL型授業の実践を、試行錯誤のプロセスも含め、新たな学習形態開発のヒントにして頂ければと希望しています。

〈セミナーに参加しての感想〉

現在の自身の授業の進め方は一方向的な講義を展開した知識のみを詰め込む学習であり、学生の主体性は皆無といって良いだろう。本当にこれで良いのだろうか？ こういった疑問からセミナーを受講しました。

実際に本学で行われている「O/OCF-PBL」においては、学生が主体的に活動されており、こういった機会を段階的に設けることで学生の主体性を引き出す必要性を理解することができました。また、アクティブラーニングの手法を今後の自身の担当科目に取り入れ、主体性を引き出しながら学ばせることができれば、学生の学習意欲も高まり、より密度の濃い授業を展開できるのではないかと思います。
 （現代社会学部 小室 輝明 助教）



文化学部
吉野 秋二 准教授



「課題解決型授業への挑戦 ―プロジェクト・ベースド・ラーニングの実践と評価―」

本書は、平成29年度アクティブラーニングセミナーにて紹介された通り、本学が開講している「O/OCF-PBL」科目の開講の背景・運営方法・成果について紹介している書籍です。これまでPBL型授業の全容を体系的にまとめた書籍は全国的に例が少なく、先進事例として平成20年度以降約10年に渡り蓄積した「O/OCF-PBL」科目の運営ノウハウがまとめられています。また成果の面では、本科目を受講した学生は自らの希望する就職先から早期に内定を得ていることが明らかにされています。さらに、卒業生アンケートの結果、キャリア教育は仕事に関する持論の形成に役立っていることも示されています。今後、大学で共通教育ないしは専門教育の一環として課題解決型授業を展開しようと考えておられる方には必見の書籍です。



平成29年度 英語講義FDワークショップの開催

本学では、理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部の理系3学部と外国語学部が協働し、グローバル社会で活躍する理系産業人を育成する「グローバル・サイエンス・コース」（以下、GSC）を展開しています。これまでは、GSCの学生に向けた理系の英語関連講義科目に関連した英語講義FD企画を実施してきましたが、平成29年度は理系学部に限定せずに、英語講義の問題点、学生の特徴、講義の進め方、英語教育の在り方等を模索することを目的に、12月6日（水）、英語講義FDワークショップを開催し、教職員23名が参加しました。当日は、英語講義科目にアクティブラーニングの要素を加えた授業展開をされている本学教員3名に登壇いただき、自身が担当されている英語科目の運営方法の事例紹介を行い、その後、登壇者を囲いながらそれぞれディスカッションを行いました。参加者のアンケートからは、「教材や授業の進め方について、大変参考になった。授業テーマ設定についても、考え直す良い機会となった。」といった意見が聞かれ、参加者の内、8割以上の方が満足との回答がありました。以下に、当日の登壇者による講演内容をご紹介します。



経済学部 田中 寧 教授

科目名：経済学英語講義A 配当年次：2年次生以上

キーワード：相互交流、グループディスカッション

平成23年に始まった本学のGlobal Japan Program（GJP）科目は、日本について英語で学ぶ講義群で、日本人学生と留学生が同時に学ぶグローバルな環境をオンキャンパスで提供できることが特徴です。留学先で、日本のことを英語で説明できるようになることや、日本的な「一方向的な学び」ではなく、グローバルな「インタラクティブな学び」を体験できることなどが、利点として挙げられます。また、本学から留学した学生の場合は、GJP科目を履修することで帰国後に急速に失う英語力を維持できるというメリットもあります。

私が担当している「経済学英語講義A」もGJP科目の1つであり、履修要件として一定の英語力（TOEFL-ITPならば430以上等）を定めています。日本の書籍の一部を英訳したものをテキストとして用いることで、留学生は日本の情報を英語で得ることができ、日本人学生は事前に原書を読むことで理解度を深めることができます。また、相互交流ができるグループディスカッションを多く取り入れることで授業中に刺激を与えています。日本語の授業でも同様で、主体性を引き出すにはグループディスカッションは大変有効であると思います。今後、留学生が増えることで、日本人学生と相互交流できる機会や環境も整い、今以上に留学生・日本人学生の双方にとって刺激のあるキャンパス環境へと進化してほしいと考えています。

現代社会学部 足立 薫 准教授

科目名：Ecology and Society 配当年次：1年次生以上

キーワード：フィールドワーク、コミュニティの形成

本科目は、本学のグローバル人材育成推進事業に関連して立ち上げられた講義科目であり、GSCの開設に伴い設置された理系科目のうちの1つです。一方で、履修要件として明確な英語力や専門知識を定めていないことから、GSC所属学生以外の学生も履修しています。授業では、主に穴埋め式のプリントを使用し、英語による専門用語やポイントを確認しています。また、専門用語の和訳も伝えることで、留学生が日本語を学ぶことができるように工夫しています。授業期間の途中にフィールドワークを取り入れてオンキャンパスとは異なる環境下に置くことで、学生同士の交流を促し、主体的な学びにつなげている点も特徴の一つです。

課題は、本科目が共通教育科目であることから、英語力や専門知識に差のある学生が集まり授業運営に難しさがあることです。今回のFDワークショップでの参加者との意見交換で、「英語力の修得は他の科目で補ってもらい、専門知識の修得は事前課題を与えることで、予習という形で補ってみてはどうか」、「コミュニティの形成という観点から、グループワークにコミュニケーションに関するワークを入れ、形成を図ってみてはどうか。」という意見をいただいたので、実践に向けて取り入れていきたいと考えています

総合生命科学部 佐藤 賢一 教授

科目名：生命システム英語講読I 配当年次：2年次生

キーワード：e-Learningシステム、前のめりな授業展開

総合生命科学部生命システム学科の必修科目であり、本科目を含む3科目が英語の講義の必修科目として設定されています。科目の目標は、生命科学関連の英語を学ぶ習慣を身につけること、そして、生命科学関連の英語の運用能力を高めることであり、そのためのツールとして、e-Learningシステム「ワードエンジン」を用いた授業を展開しています。ワードエンジンは、ゲーム感覚で語彙力を伸ばすことができる英語学習システムで、本学の学生・教職員であれば、所定の手続きをとることで有料コンテンツも利用できるようになります。本科目では、1回目の授業でオリエンテーションを行い、ワードエンジンの初回登録作業とその使い方を学びます。2回目以降は、ワードエンジンを用いた自学習と3名の担当教員が順次提示するリスニング課題（計6題）を取り組み、さらには自学習時間帯を活用しての教員と受講生の1対1、または1対2での英会話セッションを導入しています。英語で名乗ることだけでも緊張する受講生が多くいますが、そういった受講生も前のめりに参加できる授業を心掛けています。また、5講目、10講目、15講目の講義には筆記試験を取り入れています。

英語授業だけでなく、日本語授業でも受講生のモチベーション維持・向上は大きな課題として挙げられていますが、「遊び感覚」で英語を学べるe-Learningシステムを用いることは、大変有効かと思います。

ー単語力・語彙力のUP：「ワードエンジン」の紹介ー

英単語力測定テスト「V-Check」を用いて語彙力を測定し、その単語を知っている確率を計算します。次に、特定の英単語コースの中で知っている単語のパーセンテージを計算します。そして、既知っている単語をあらかじめコースから取り除き、知らない単語だけの、その学生専用の単語リストを作成します。ワードエンジンの学習ツールでは、単語を見て覚える、聞いて覚える、文脈で覚えるという3つのアプローチで単語学習ができ、ゲーム感覚で楽しみながら学習する工夫が備わっています。その他、ワードエンジンの詳細やアクセスコードの発行（有料コンテンツの利用）については、教育支援研究開発センターにお問い合わせください。



ーリスニング・リーディング・文法力のUP：「スーパー英語」の紹介ー

「リスニング」や「リーディング」教材を中心に、800時間以上の学習が可能な多彩なコンテンツ群を搭載しています。目標に応じて、それぞれに特徴を持ったコンテンツを活用し、学習に取り組むことが可能です。中学、高校レベルからの復習に最適なIntroductory Level、英語力のさらなるアップを目指すBasic Level、Intermediate Level、Advanced Levelの4つに分けられており、本学学生・教職員であれば、誰でもアクセスし、学習することができます。本学Webサイトの「在学生の方へ」ページ、また、以下のURLからアクセスしてください。
 専用アクセスURL：https://senglish.kyoto-su.ac.jp/

- 「学認でログイン」ボタンをクリック
- 電子掲示板POSTにログインする際のIDとパスワードでログイン

